



エクスポ・センター。



「ワールド・イン・モーション、ワールド・イン・タッチ」（世界を結ぶ交通と通信）をテーマにしたバンクーバー博覧会（エクスポ86）の開幕が、あと一年後に迫った。参加国は、米国、ソ連、中国、日本など四十近く、参加企業も十数に達し、フォールス・クリークの北岸から西岸にかけての、全長四・二キロ、周囲七十ヘクタールの主会場と、バンクーバーの中心街をはさんで反対側にあるバラード入江の第二会場では、準備もいよいよヤマ場にかかった。

万博が開かれるのは、来年の五月二日から十月十三日まで。バンクーバー市制と大陸横断鉄道の太平洋岸到着の百十周年に当るだけに、来年のバンクーバーは一年を通じて祝賀オンパレードとなる。

バンクーバー博まであと1年



EXPO 86が開かれるバンクーバー。白い部分が会場（手前、左右に広がるのが主会場、後方が第2会場）。

ドームの呼び物は、五百人を収容できる世界最大の「オムニマックス劇場」。オンタリオ州のオムニマックス社が開発した特大のハイファイ映写機によって、普通の三十五ミリ・フィルムの九倍も大きいフィルムで幅二十七メートルの半球形シネラマスコープ・スクリーンに写しだされる映像は、ものすごい臨場感で観

客を圧倒してしまふ。

もうひとつの、三百一十三人収容の「未来劇場」は、十六のスクリーン、十二台のスピーカーからなるカナダ初の「観客参加」劇場。観客が、世界旅行や地球外生物、脳移植といったさまざまなトピックスの中からどれかを選んで、椅子のひじ掛けについているボタンを押すと、最も人気のあったテーマが、レーザーとオーディオビジュアルによってスクリーンに写しだされる仕掛けになっている。

さらに展示場「デザイン二〇〇〇」では、風力自動車からホログラフィー、宇宙服にいたるまで、交通と通信に関するいろいろなものを立体的に見せてくれる。また、第二会場では、政府館といくつかの企業の展示場を収容する帆船の形をしたカナダ・プレースが、しだいにその姿を現わしてきた。ここでは、六階建ての高さのスクリーンに写しだされる三次元映画が目玉だ。カナダ・プレースは、博覧会終了後、巡航船ターミナル、高級ホテル（東急チェーン）、世界貿易センターなどが入ることになっている。

「ワールド・イン・モーション、ワールド・イン・タッチ」——人類のこれまでの交通と通信におけるさまざまな成果を祝い、将来に向けて知識を広げていこう、というのがエクスポ86の狙いである。

会場では、このテーマ通り、いくつもの先端的な輸送手段が紹介され、また実際に観客の移動に利用される。

例えばフォールス・クリークのメイン会場では、端から端まで、地上五メー

ルにモノレールが走り、乗客が移動しながら会場全体を見渡せるようになるほか、入江内をフェリーが運行して人々は数百メートルごとに乗降できる。

またフォールス・クリークから第二会場のカナダ・プレースまでは、建設されたばかりの軽量快速電車や高速ホバークラフトが頻繁に往復し、メイン会場では、フィリピンのジープニー、クウェートからきた貿易用帆船、ベニスのゴンドラ、アルバータ州で開発された氷河用の乗物「テラバス」など、さまざまな乗物が紹介される。

エクスポ86ではまた、五日間から二週間と時期を区切って、世界の交通と通信のある側面を「特集」する。例えば極地の輸送と交通、航空、海洋輸送など。航空特集ではアポツフオード国際航空ショーの二十五周年行事、海洋輸送特集では世界帆船ショーなども予定されている。

催しものも目白押し。四千五百人収容のエクスポ野外劇場をはじめ、国際円形劇場、国際プラザなどでは、民族舞踊や連邦警察の有名な騎馬ショー、コンサートなどが毎日のように繰り広げられる。

また古代エジプトのラムセス大王（紀元前一二九〇—一二二四）の時代の遺品八十点が展示されるほか、会場外では芸術祭「ワールド・フェスティバル」が開催される。万博期間中続くこの祭典には、カナダをはじめ世界中からアーティストが参加、舞踊や演劇、音楽を約三百回にわたって公演することになっている。